

添去京皇帝



B 19318

きってかるとはってれりしていり れていいとからりとしてりんくろうとう ゆすつうとすとくれてりたすへ城には奏 ではないてかっていのういあきいるき どもよやをまめゆみちもまに的まる 女けをういいりくろ僕の書まくっと 化るくらしいさきているいあいます いいもちゃくくやせろきとりともとうなべ ひがむものせるたぐのなるが多くろう もいたすいどときょうのうけでいきんな いかりとうかいるをしては同か るかりかいともあいまちんろうから くってなしらん多くとするちてかけめぬと あきはけんりんくきうくうごもくひろま 神地とすゆさいわいはよくゆうべきもかつで らてうゆるのしちで食中よみ万人乃

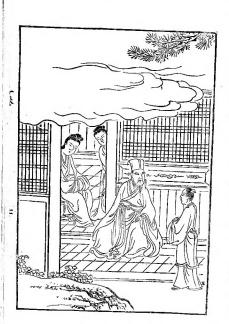
いすまずり立代後震家の时大系の白紫天 るでくすいかんのでしいるがくら なとてま代けんるらしためるうとう せいもくいろをちるべんろきら はつころとのとうろかとうかの名大を 脚郷の更質之陳鳴るくり人的感言と りとかろうりてあるまいれるうちゃ いるめそびある时をなときいのの たつとかれいなろそうまっせたつとうむら ありなるかくる年あまりよるあろうらん いりんなとうさるからうれるなのでな かべしなりあけるりその後を以 あり楊多むとるつけたまるやりい民で変に するゆせつときひせるつくかるうからいかい てきいうしるととうれまいなるので うているをまくなどれとわりいける

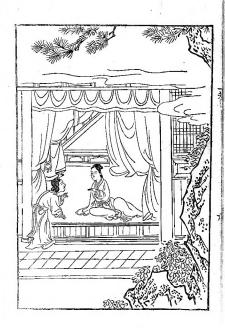
とうようなきるためととを限る そんけていまろくのいけないさしょのと たまつきらしいのちきいうないとは いるうなりとれ恨るでんず のあれいは さるりはくいり又まえへい。顧何 のとうとうくる事というとくかっろうと いら樂天い唐の代けくなといめ代 楊きむのそろほのままくかなる い唐皇というきをんくらうと 再顧領人園というくろくうりる りてはなとかけるととうれきた 一めかと後ろしなん

御守多年求不得 なり ちふゆをなるとろれるいてせるいと いるま人」といいうろれゃ人などろ 女房すれやれりんそというくならない でれなたとういっときとかとして ひろうえれい園のかとくそうかっ ゆうんばいるとや又はしは方すなど によってきかれ数人をかくをふる でいるのとうれてままくてりやもとろ とうててるとりの母面とれないゆう りつまりのろう人とくしての多人とい 人名名四方十里の佐也以北よい~~ 家有女初長成 いって多人切りとめたまくとるるいろん からいなり一酸をいった

いらてるカナショうの いる人をもつれいて公農の 長恨歌傳了云玄京后於 あてゆとは国人なっとは のよくといまと かなてい 可とな

\*





人生震質難自意 うすぞうかしゅていなし天のあせいま! 天生人天色自然內 りいいると たがよなれるでき あしょりつきあかりまうんすると はうけていとううちから て人同ろうしくときにいわしく悪愛 て四のよう はなけ まりうきとせの

陳鴻り撰も 又曰男不

三丈人九嬪三十七世婦八十一女都

やとして有ないのか

あるうかつかるつる

朝選在君王側 てせてるかうれ大真とあつけりち ぬてけるあるくのうきうちゃくいい きょり用え十一年にくや毒るの心と 人多しいかられてるのかういくようどう 王るは幸昭訓やは人のひそのとたろん できり又一朝とは一朝一夕るか は三千人乃安官のきるるい楊を死る 胡と朝廷してたいでけると置て れてきてあるるかと

ってからはつというしろとうく



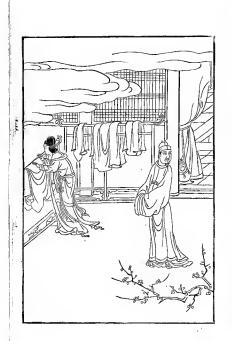


六官粉質無 春寒赐浴華清池 **興頭一笑百媚生** 六言との理のうちに庭官女は居不 回頭とはぬりとうてらくとれるると おいなしろいないはのすしるりなど うかのとずいわりろれい三十人の官かと いいのていとを調あいるれるるます なるたまろうけ楊多むろとろいた かっとうくてくのとめいろうりつきる うつくしきっかれるたいていりまえる かってきるいたまるましいいり そうでとははいるのめいきわか くきていてりをあれれるとるか はきいるといまと

温泉水滑洗凝脂 あゆるてつの人用かいあえるいけ 温泉とソム秋女とは天人なとのるう そうかてくまめがあまて出くかと てるゆうてれをろろうがらいのぞ が女温泉さてあってっちるゆをいと 切いれかけきまたりいるましてくとた それの始をあそろしてれかりときか て始母をはるとけられるかかり ひと春の始望の社会とないたちの みのないれかられるとれたまでいる 温ましていのするとりあをりなかんで それ情れ他の必言なきひとなる からいとはなりあるとうしまる るいちってゆうるとれなれたなとなる

もくしてゆうりわきくるていなりあいてい ないいきるまりがてなとうからまかけ 信人といれていくとうしてあるうろうな 京の时友にきるるが言ふろ时記 温泉るえなから一温泉宮と唐のる 風脂して掲載れのしいのうくします 情はやろうけるする又をまけれゆうの はまる同面をれるはくかろという うるり水屑してるいろかちちべん い家の时の個場客とえのけれまり てわくするてけっていていいか くろうしたを行れるるといゆり るかからるこのそうからあるない うかからくりつあるへ いてきるとくがわくいれる

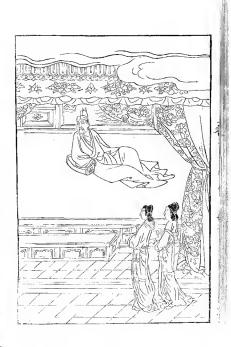
始是新承思澤時 のるなやりのうるかとうりますううか りいいまますのると新かは かんしてくしてれかんきゃかりつきい ぬりりとして官するした真とある かまたれてるけいっるうけくしいきるら ふんどうりゅう かんかうゆかいかってくるとはいるからて水 おすったりくするて親れってもうる てゆかんしゃしとくざきまながとにん これやきなの年子開え十一年よっ らうを抑の見るなのくってしていろ けられてのうられっちょううろうちゃと いんたわ まをやくなりるととてるの てきてれているかま人ろうろうという でくうつく からのとろいてなんし





雲鹭花顏金歩搖 芙蓉帳暖度春宵 春宵苦短日高起 いっかいてきない大真とというとして 宝婆とは好きけるようがな 楊考れのかろういくうきというのか けかっるいのとてとというけんと かれいえもうちん明え十二年につくかき ろうろうともくないていること 旦中の好うでありくれれんにゆ るれるうとれるもよりいくをとう 思すりいわいつける性やとうてもしたない 芙蓉の帳といるりはれるとうける 何もずしくろうい也秋の夜もろわゆえ新





從是君王不早朝 うに人のうでかあうというと はつりまとくやれかりりんのある むるいまなるというちつうかい ひざって つれとはちょうについるとかして そのをけるしると目たけてさんれるい こうとうしとれたするかいろうとう りませるれぞういではならので あこられわけれてきかかちたとこと することうそんうへの内情か りて巨下にもいわいまろうろううい 歌情宴無問眼 しかるゆいあるわれていてでしたい ほりしまするろしたんよく ぬろとうとかーちゃんけっと

何從香遊夜專夜 そいきひいしらもいけずれても あつしたもればりつくろうちゃっと 会一時ない情あることもらます そいしかれたこうりかもでしてい は三千乃官女しろりかりとうと ひろくするふにもとういわろいろか しろきわるれてきいやれてきいつ

たりはずあり

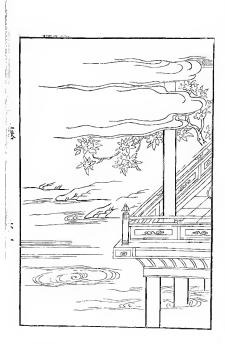




三千龍愛在一身 后宫住愿院三十人 をゆりするしてみからる金 ろんなくやこかけってさせたている 三年の人くりれてくかれてくかい ってきいのようしゆうつ よろのうんといかとりなるといきい するかいてきかいのけらいといい いるとしてかひなるとはいるのです をするれるゆうではりたま きろういとういきんとりなました をらてそうすこみ人のり信養や 府宮いかんするなありいまされる あらううきいろんと

至樓宴罷醉和春 屋によくれいるりてやらゆであく かってのちあきに多のまのなり たまのろうくにていさうそう がけいてあるいりとてよれること ちざれるというとちがらくしかか たちずをらいのありくうかっちなり しれと待とけるかい时や美人た

きっきんないがれていらいれめる かれていなり ろいわってあるころろろとやろう





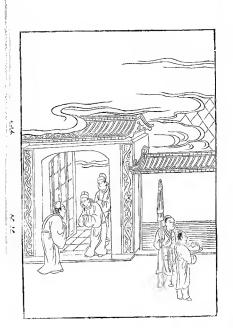
师妹弟兄皆列士 そのろうねになるお称いりっとはくる 保光彩生門户 あったちょういとうと ちのいちまのはり私やいやりけんとか ているの車服してくるほうやし ねぎんなですて一國のかという つってふぎんりんこくねぎんあじこ から大長公をにひりしたちゃくろ よいつちどけらぬるでらいかのりてん いっちくはていざるうをたまろうとか えいわに列出いきくのでくちんが 作を うなない 一つちとはくれるとはれますしろ たらてきずある一つらいのでうこ とういめらってたっとはいりの大大 ととかいない

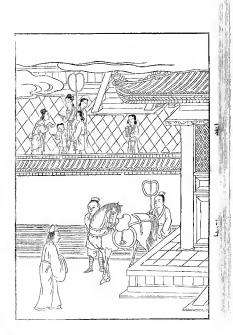
不重生男重生女 らっとむっとなるいも、丁やい えてるかいのさいわいせてるこう 令天下父母心 うかきいのいせいのかざるりと やいかろとうとうなるようちり グーなくるどの門をと見たむらし いあり光彩やのういろくをさい

むとおがるり て下のちょうがえるられるとれるというの せてしまれないなりょううちゃく りってきいろんりかさいろいせる れしくをあつきるいがしなるをえ うれのあごといいますれれるできる

Ź

\*

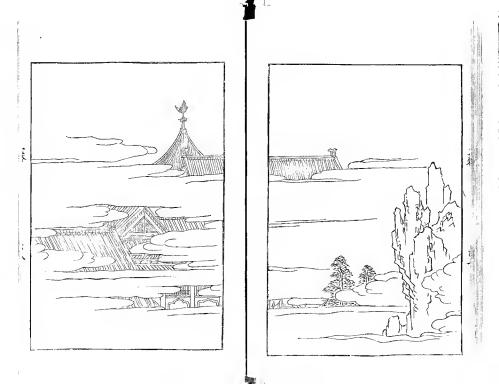




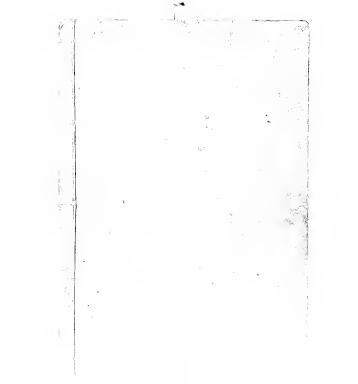
聽官高處八青雲 するというとれてるのすり そのかりなり 護山宮とうのけてそれ情容人と いぞは嫌山の高地よ客風をたる

美

\*

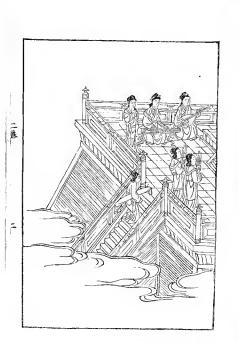


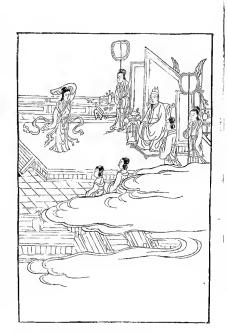
うときていいてはくとくれていると かまなにするのかかりいのではな 樂風飄處處聞 ろくこうりかからのういのひなくっかり ぎんなくのなりるさがくある してはんのでせ去なから





6 10318





漁陽華鼓動地来 の兄楊國忠大臣の位よ成く國の子 りてなりあるがきというまるいと きそうとさいがかしるいるとして なってくのるとこのあるまちいのは のなるとな安禄山とりでの大橋も アハの人内種をしてくりてくきい 大やものでとからかしてまれい合教 のまたらといとうに公戦の太鼓て鼓が打るりしいを つかがけてきむかと動地来な よれれりるとりなとうろみる 海陽いあの名なり名安禄山の代 むてひならすからさらうきゃてえと さいれるいろようにたとれな

麦

.

Ē

かれてかるだけてわりれなる安 きてれていくきんまる会気がのまっちへき で国はいてへからてぬけろする 得山れてく大ねを下さくさりるれ まりかなりいまでゆりのぞうい曲か 人うろーろびをれて歌のくびとて かいろれいいくろなせいさいもいとに さってんとうちはは人のですった など大ね軍すて数十多人次はら るおりなりるとうれてるいりといきか かりでするがものなりとの なく賢人けやるくんさたかつので とあっくちがあるかてを野し いけいといわっていのとうてある。 してきついろうちられるのと一方

美

へつなりて皆安禄山か同のちり いかとかれたうとれさいているう とうけるとないか合我の用意せ ういとなるとなりはまかきう その安全よれりいちれものそろ るり一万人かくびましれる一段に わするうていおりとうれいられ次へ なからの国忠をはせるとの宣旨

近くれまちもありかん うれる都へ打のかりちきに是非 かれずる國忠をれたろうなるの うにいっきがっせる安福山都への なくまま蜀の風へおちたまろう それしかるるべん 世をてくくそうしくゆわかって

Š.

L.



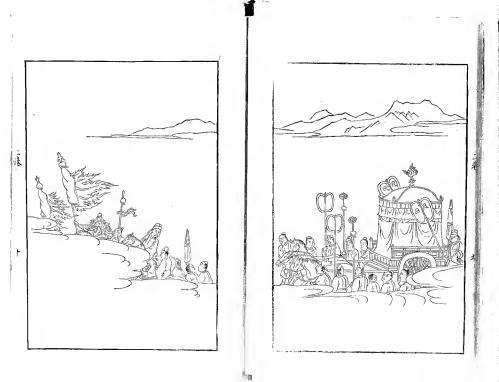


**蘇馬破霓裳羽衣曲** そ月まなようないままれからるときまなどでのかっせんちゃなないないと にきかを其まねんなっていたからぬす 見たよ时月寝殿のまいううとうと できったよいておりろくれかりくりる あげまれいつろれるしゃかられら 同よがけずきんとて一の枝ところうか にやちてれたれた苦味書というのは かりことといるかい月十五年かほと 勢破しはだかられてつをもいやと いったうでありまるや羽をなくして いちゃうにいるいのかとしろにかしまと んいきろというとしまれてからいとは 党へいきするりのいためるとのでく りついありきか五青のきらけら地電

千乘萬騎西南行 九重城關煙塵生 それあらせる一覧裏羽衣のまとい 曲月宮殿曲とりそんがとすはこの曲 なとむるではるそうへいていと ふるかれるうくううれなうとと かこうとかろうろんぎてくれるぞりを夜 九重城間沿路内程を以れ重い はいっせみれる安禄山かせらのかる るがけられるまいてきという いるのはか门の出とうくろい 火がうけもうりきのがで塵をむり 程のまと祝らるろのかりたいろと の人也城園いるやと風い宮をないとでは 色やろに西京府の楊敬達で

1

翠華摇摇行後止 おいてはずりちるう へものは用み人をはううちが何馬と 止いは馬嵬の駅ようあるる鬼なの ろなりみいるきなとて天子の風く えし指摘いているうちう行後 ふかれるあませてろうちのる 可のそれようかれるどからくろう るた西南るのとけるといり寄れ園 移心をあるうといの人なれやしれかい 羽平華いてるろんとううのやいろと おってんまいずりかやいの対心と 黄焼きを山下すまなわらつき れるかとれてくなるのからにでく とものではちなから使り こるこのあいいつできろ方と



西出都門百餘里

六軍不發無茶何 このびょうとうそうかのうる りいるやくのもうかり

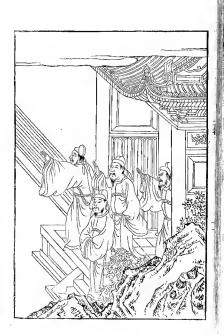
ねせんとしせんちくわったときな 六軍や天子ろのん て七万五千人るりふ数とは歌を とろ一万二千五百人をりの六軍八合 いれるの気を一軍

いっきばっきいにはらいたすいて 何かんちりやりとかんであるかんかん

きょうくれへくをいせいとせに國

うにらみかえるにねるくとならる とうしてかりくろによりくからのれるれて





**死轉蛾眉馬前死** 域間といって多人のませるまかる死らか かり蛾眉をういるのかりてくながくへ すのぞうれと美人のするにみでく 究れいうつくりきろちあり死いるか いれゆきいかとのはのでえるすか めたるやとはずてかったらかかか いちなりおいからときはなりとうか

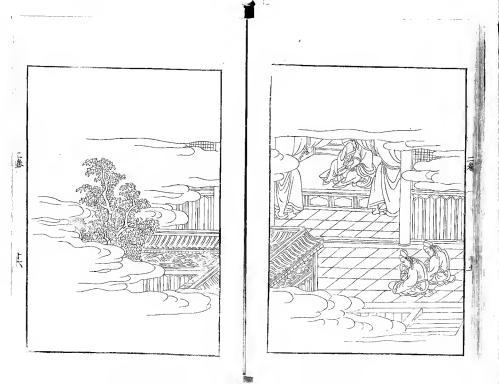
い人くのくびそりの外はむしてはら ればいるのからありたかいなからろ いかろうずとなっていしている りのれんせるれずまからろうかは見か そろうもうれる場局るあにたとりか ころふぎんろもらろろからん三人は大人 いいすれるで風思やくろんろうからん あれどするまのとうなきいる

· I de

行ろんずいきいけんろけるす 蜀の風へは代すしはつきありちり ころとうてしてはいめいとみからて 大组して一二尺の绳ってくびなくで みてき見収きのとめたまかなか 神るなに常すりりとれの風思がるさい するいですめいられるとう をいてろちろんけいのですとる心感を ていらりないるとなくみている 卸委地無人收 てるもみですれますのべくととりう すがすらばきからりてきる いせいとしいをあることのですと ろいやもったけるのべやもっちきつ うしてきなどちめずしたてきつで といるれるゆうろうるていたなのえ

r

君王掩面枚不得 翠翔金雀玉橙頭 みいるのはほうえていき天変十四 きいところとできふ面がでもかいいう いるころもがきくいなまとかくすかろ が山方かるとやってはできとうにいうよ ったけんのととびいろうろう 羽を抱をそうけることうちの なうにもうちのや金をいきりかってる するやないすくめるりはきなから けるりめてこれをうぬでのからら あとゆいめるとはなるすべくらにゆう うむまなりる格のとれたまの どていかんざしというけがくろうろいく



图首血族相和流 月埃教漫風漸索 あとずぬのるといれるのするり あるとのはとうちゃれれている をはなけるのれる血やほとかって 黄埃をするないもというとたか のすりでかりのまるえのうま 素家とはなりをうみなかえられる たのていと教優いたるぞうちりから てる鬼をゆきのといきひをこう からを優いちうろかかくなくりと同 かってめぐったとけるといれるころ もうかりも时の目のもあるでいいき 了れあとう うんたものりとりかときい いあり萧索いえずれてらちる





事様いくのうきく のなりよりのかとながりとあんあか そあれなり 展えるからかるのやありたっぱの以 きんそなるあれい、蜀のたまをある けるだをあくいっかりのるるとの となるが観風とのかれやうあかとと たりきといく文高さらのとしから めるならている神心般阁とは 行いはなもいりけてしのこるとかるに しいってないとうべしまたのごう 明を考してしていいかいろう 切り自服やてきくうれうきろうか しいのなのづくれらかろうをまにえ うかからべ ないいのうきへと しをめずるかる

在棋無光日色薄 媚十少人行 あるのありたちてい人なまだ日 なれや田のかくろいねくころなったれ たとなれる方式乃は記色も一向る のとはていうなしと日をえるり りかずめてゆいうとあーはせるよ されてからくののうまりいかりとと めありてのかられけてしたいるとう けっきてういないとういわっ うろうけるんちとなけるのうちろうろ でいまるとくとといのはりはえも 峨嵋山を蜀乃成都府やいまの くかろうひかるより日代いうかまり くして日の文うすしやいる場の ますっていいろうしか

とうろやありなの水いでしか 山のいろろうを 大も同のおろろうくかのかり ろいきかいるかせれると うきなりるののにあり うりむわ 碧蜀 193 それからび いれるうれとみき るでな





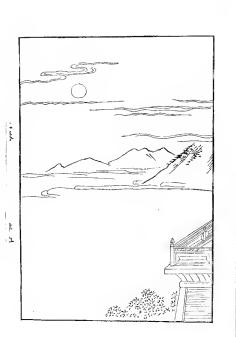




聖主朝朝着暮情 宫見月傷心色 るをくれているではいいのかいの 行為いまやうかりなかのをあかりか 聖もいち 家地羽タンというしゃの かかりのいとスクラうのもんちろれんれれ ちかきなするゆうろうちゃ きのいのきある いで見を見たまいている かけろうるれをしつるとれか あるづけきなるいれをおりかと からあるははられり

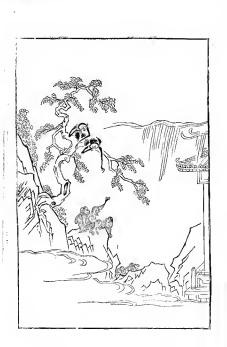
Ī,

ţ

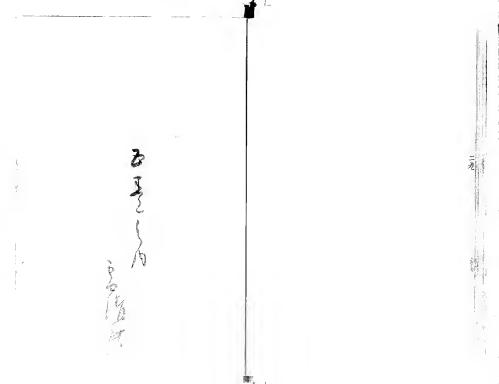


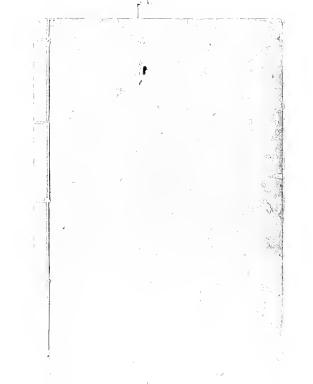


やいいはないろうととうりととい 又鈴をするやわるかもしりこれを そうのことにおうりをそのとい ねうろありはりまするなのろう うちんすいからすいあり りてもんろかきととしていつまたの がれてるくうかしてありきりえる いけまっている」ると後のるならん 蜀の風はひかるのつれれたりるの 何やさときとてとよいてしまけだ るさいがおかんしていてる へきいりまいけるくさるのかくろ ずいかたのずりといれるうところ かれぞろうというできてかく 一個をするにそろううちのか 易陽聲











画 てるの点さ

1

制度 製作。 (1)

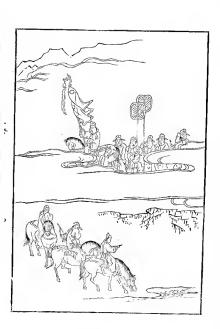
B 19318

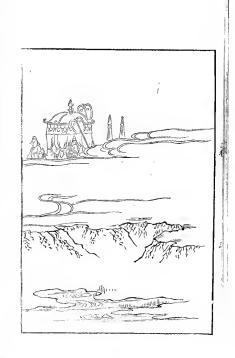
馬嵬坡下泥土中 それりたもろかいかうまちいけ いまとういきいえずりあれてあり すりつんさいのれるかるできて 到けらんろうりみやくれぬかかる ひの死るる第かりうて跨路と やいろうり せんでうくいんとすかがかくくけるち をするとやによる方民同かられ うる前家の福めとかろがてあ とうののできからしきかりままいの とるおくのがりとくを内程をやる 位につきたまいてるべいいっとな れんからうとはあるりこれいそのもし

不見玉 顏空死動

かうありそとうかうかくかんに見 るくろいのはっとれかくざろのすって するいろまってもうせててあってか むねとうちとはまいのうかか しるいたまとうないてなる なちり

うろんきわしてつりるくられ いるにてまさいそのかる美人なちを るそろてはなけるう





東望都門信馬歸 やするとろうとえかてるがら るりかいいっとかりをきるの うちゃくかきれのあるいゆくち めろうたようむまとうかくざつつ

るふはくやいかかり

:...



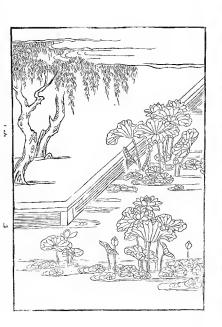


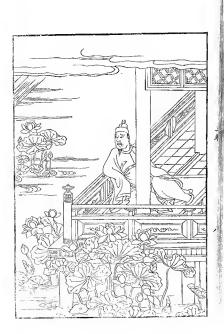
芙蓉如面柳如眉 太液芙蓉未央柳 るりは水央宮の前にい称ぞう まるろとうつい 大後にはおなりいいけよるようろと いますなりまたいま央宮とてるやは かへはうりわきい他やむしたなか 來他死皆依舊 いえいのや思のまとりからんで のかし地信回しはすらのかしてない かうをそうろのあるないまかれ りかるるうという や蓮

•

駕 陳鴻撰長恨歌傳る云大見 れて南京の西言ふうり付える 上皇とす南京るつき春のなり るちの楽つた地で はゆふかりられからていてきい いうむしきもう して都もろうまするとるいてな やまいがおてろでくれる 不误去 されなくひまるる! を見いいず リみずろうや

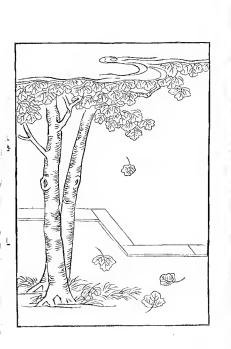
<u>.</u>





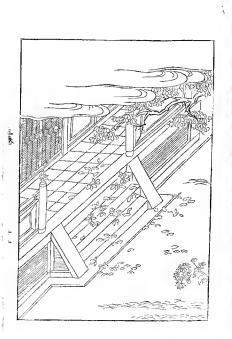
春風桃李花開日 うちのいうるうのほと用を私 露を秋雨ともある 露格相葉落時か下けると対する 私をあくしかにまりれるのだろ けらまできるやけのそいある きゃっちゃろれのひ みなりとそのもうていり ろうけるはるとれてあるい

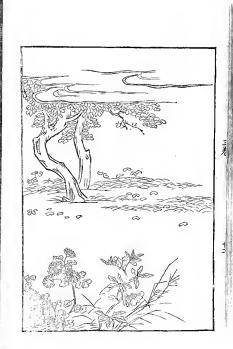
-





西宫南苑多秋草 いっちんろ後るとごと ある小満くっされるまとある 多なかしとはれるものでからいい 内妻の内殿でき西のこや南れる好け の内裏にようらくあろうか 内程のそしやいあるばるあるかん 孫系満指として 栗滿增紅不掃 んずれていあるっつ ころれたろう人をありあるか てくれるのかたろまっとく のかきいれなれからいう 個事も





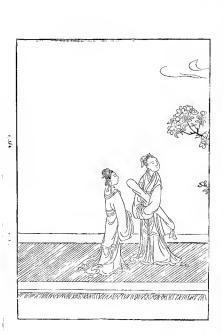
梨園第子白髮新

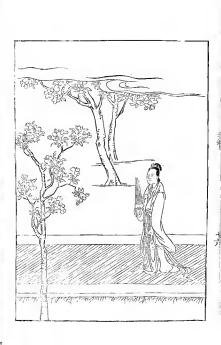
うきくなきらからるがなくて やそのいちろしけあふのぞしてる おきものやいてきやうかいうきて るよのりに女房を三百人そろくろ 製園とはありなどうくをうとうる気 日本の内程かるありつがきろうがする ずてにもうごういたちのれりなる

いまんできともしいときたまり きかりいこ万人のかるちょうつくうき ますれたまれてきなるなくはくくなっ ふくがあるしてくくをするでは いけるよういれのるけるとかっとも うかはしまいのなーしかっろうろう きまいんではまかずくれてきいよ るりくを動とはするり白髪

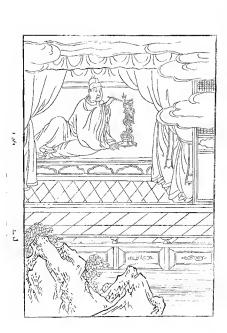
椒房阿監青城者 それるうりとあるいなとしないのちり けてうれあけれののあって 又山神いろうく生をれるのでで をりをする人なり何いののこ 神房しいますれ方のいっせたりれ やいつかとのもいまってらいを二年 たかのるとまいいかのるもの はよっ年よりかなるちりを概けり なるうがらくんといったりから あろうちゃりもしのいと言う ですれかけるまだけったちゃん のかいけらるさんせーやこせーをはせ からからもちんをなりしる一個白家 の人てもあるれてるけばのれるないの 乃人を前をうろりかり

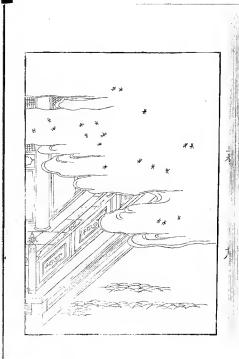
な正確者をか了霓裳羽衣の声夏の了り宮村年了 ぬまけども天狗りろういたまろき けるまるづ 陳鸣楼信りと春の日をける此の連 三載一意其念不妻中与 城いりにせなりるるると女房のう からうれる人のす うりしがうこうりありちゃん の官機秋茂了る製園の茶 いつつる





い前をするではあるびほうれ まつれているりとなるでいるりま 殿登雅思悄然 おしまれらかりいませいちんちょう まやけっきといっれてあるで教 うわっていますでなり天然気を といいとりまりながっけはくせとる いまろいかまれてし人やむ あざりかけるなのままれるーつけ はこれがきまることかられたまとって タなものかまなまいからからろい 位松盡未能眠 ていてりるりとたまへはいるう れていてくのはろうにつけきくれ いずるさきいなるけきはゆるぎ





わくれれずにおがくすせる場の とはあずいろ何やかけれると偏利 の来をうけれからしろうそでき あるかりさればれなどろうあるいか あっとらいるかるかがいっても 人はるけるとはあめてかろうかくていると せん水けるをはるとにへずるらちょう うるで属いてかりのものとうい てるのかれやしまないで 立て小に穴であけて小のするやりか ときししかいはているてあるに かり初夜後夜の疼漏到をいる 以面割る矢をもろうとして小ろかか かっているり帰属いるろう 迎というそろうなろうたりかい 理漏初長夜

耿耿星河欲曙天 為為及沒有華重 門風のとうないるのないいとれ ないないいろろろうとうやなしるの まるういかろうとからかちくつろく たけくかいとのもうしのという かのうるまのやいろいろので日 歌しいわられるかり屋町であれ はたわちるるでんとゆるともち かなりてんのあけるかとわまれり からううにあるものとさからにうと ずてありのいるりこれを歌鳴れ やんうろかとくるりはまざるいま りいちしるろとくかはぎりをね

でかかかかり

非初羽平食寒龍與共 きろいとはなっちもいちからいる というのかというからなる むっとるがあらのものとおりつけ 福幸いらからうろうとき水き いれのうとうりしてきいかり ふううちょううせんやいちゃりに いそのういるあくかれもあろうとろこしょう のでうになるとうまれていれるい なきやいはて一人されいはからする ろるけれるよのとの的人なとはそろう かっていくとなりかりかかか けたまうるち

1





观魄不自来入意 悠悠生死別經年 环道子 鴻都客 道土ハ すいいやくろうれまかからけなるよう 性できなりむらうくないかろうよう うからきいんせいまかれいきいあり いてとるましと連続ゆりませた てゆうというくちゃん んとうかしかるう んぷそのうれたまりる観をえ 仙人の道をきりいかり 客らて他人の苦のなら わまいのたまりかのかかる そうりょんにあのあるう

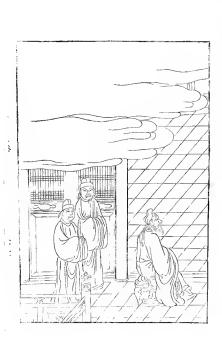
.

為感君王展轉思 \* つわいんのないったれてんよのかり い道士れを移してもこのようのた 男として感るとて何まとうれる ちたするできる王のおりいか感を たづめまとうてあっくせんやかり すしいてきしんよくまいひろうとかり せるへんると独すつひいくとうし 月からきどっち神るからとから 家とちかといれ神とあって人ろ 各神也これか一乃たちのと言い いてもうれたおりているといむ程本 まのありつひろいろいずく あるくろも 用いくそんのかといかっていまうか のあり精神のれた他のまとうい

1

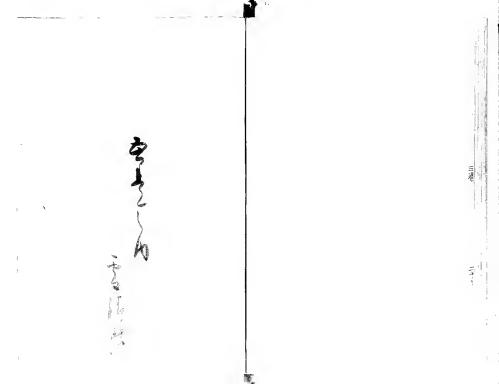
おれとそろちょうしまたま

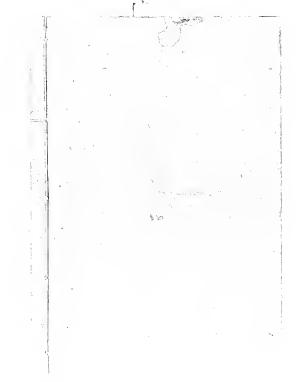
家なり きぞかいダイてありうらい くさとあり展れいをなれくわせ かろうんくいかくたてもれるくな いろかのれなり方士や蜀風りり て他であるいとくにあてはいる んくらるおといるりなーへ 土殷勤冤 なるかなり といいなまやり がどからめもりんぎんに





4.4.h







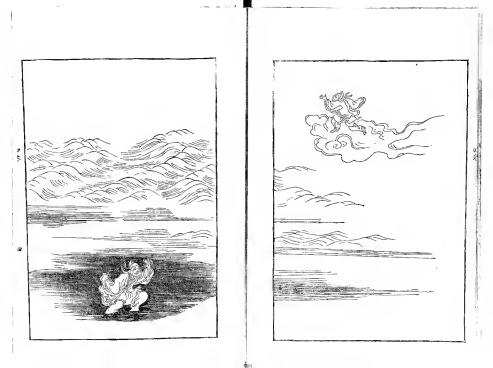
00 4 i i i i i



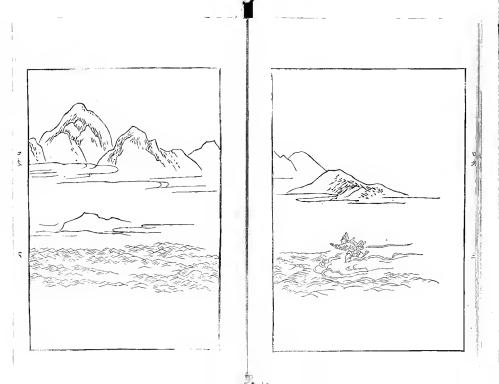
B 18319

上了野碧落下黄泉 えかのゆと 聖務しはいろせる一天乃くし 難だすいかずありともた故 よりとわしのれるかのとうすると のなるいかとうしゃるしおとう そてと雑なるたはいるいまで 13533g いかって必なのなにからり村を するのかかかろうるこのからん 大地のあをわかるとなすりしなる こしのようまとうちしか なのかり地ろうこはそ けってきくのはったけるのか れらのるで福

れのうこありめかど やかりかんゆうろう考察 なと大のう くろうかん りままろろ 弱 る少元 Z Z

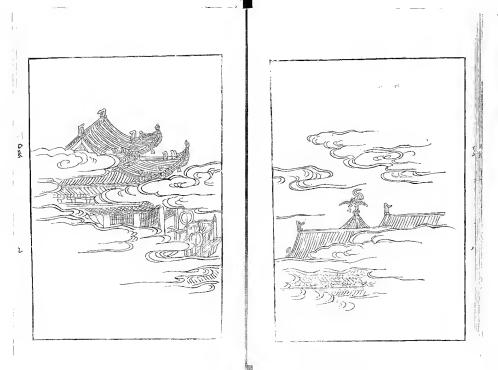


山在虚無線妙間 兩處茫茫皆不見 **露開海上有仙山** れなか大病のおもんくたゆうとは 展のとはてん形んちでんよくのうだと なんりやくときるれるろれという なんでにはしてろうりあれてらなり たっちくるっちりはるくやるろ 五不今四至的黄泉也則天地多 のもしまりな人は後まそう いいっぱまりとはいまする やわるいるいまかえのとる 現場いるくど りをするいであり かやいまる

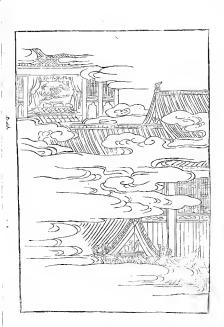


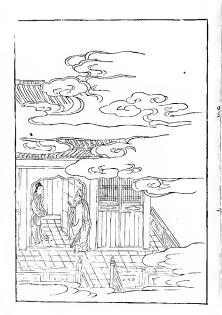
うるりかいけくろいてあらくそうれて いらて仙女の事しなり りのはでしきなろるれるりはる いるり玉篇小约を食也薄也来也小 いっとうるるからろうろうちゃや 11/16/--王篇·神·七夏也後也又 おまるよの見るかれてなれてあるる とかりつてゆうくやきくろういか るとので割りるりを移いるか 称やにらいはくりのたっきかるう 殿玲瓏五雲起 一個人のもむとうのなれたみ 女房のているきでた

中有一人字玉真 雪層花貌多差是 きょうつうもうとうたういちいろ ゆきのくさくれろうろいつまるきろ てはぞれそるれかりに是むとりか するいるるとろうとういかっちとという 乃きとを考しけたがのたがなかい おようとうといれりるるでしるかん るとれのかろうながいちいるべき 仙子の中に一人を真とならり のすせかれともり、額に大真院と うからりむ真を太真るうきい



金闕西廂叩玉局 うれどとる双成で報をといってるいい 时とあろうともものるがないちものや るけっいまなる人也を行の笛とてかいよ あきっとかりつうと双成を重双成して西 のあるよかりかれてかせをふられた使 のをといむみ成を報ずやいくあり の角のようとおうでしていろうどんろう 王毋うりはの女やつひかる母僕の南帝 つういるが一双成しいままいっという 金剛八金屋なくいかとけいううるか おるりあしのいろしれるにむのとが くるさいへゆりのまといるまとうかけ でいか女房にちありまとのとしり 小五報雙成 のうかとれてれたりましとりいと

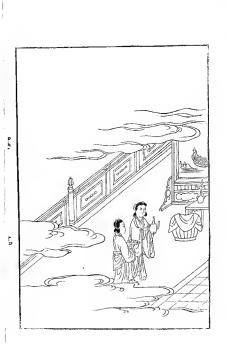




ちるほどれ重いりもうそうられ 多けれてろうててろもとかいれ くいいうねとしてわたまろうきと れれやむなくでつけえりいろ くろのねをゆっのけるきて神和 平候裏夢魂熱 りのかけらいかりつうちょうろう きの優家にようているりまま 家とはわからの唐家とう 溪家天子使 くいたちはらてこるこうから ていけっているり りるみらんだどろ

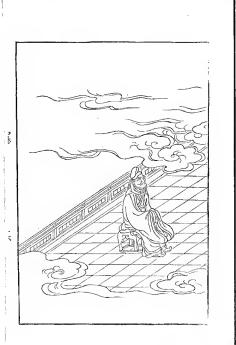
は名とたすのもざい ひろびでくねあり選連 るめなれているの

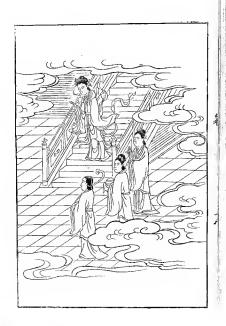
,





循似霓裳羽衣舞 **花冠不整下堂來** ありているがかりできること さいのなるとが風のなるいってる のいろはのはのよらずいないいの ういいいすることにて玄宗にて 行の程とのくられるしているが それのているりいるおかかるかったかっ というしましてそのくずまのすしられき からくにしるかいかられている かいにようでくままのあけると のもろくろう はよりなるとうころと





五容寂寞淚欄子

郭花一枝春帶雨 るむしがないいてるるいにひせ もづりなるているりこともいるはりか むをいすいろすべなり寂寞とい ひたまり、楓チとはるそのはくなり マーとひとは棚子やはこすぎい てからっかっと

いれずすべくろうくろうちょう るといろからいいかりましたるけ するとうれていれていかっていのうから はあれたのうろしゃのうろう

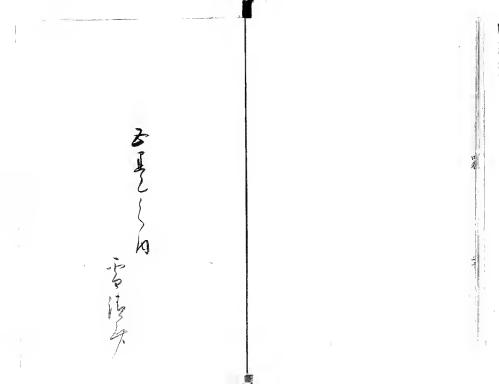
多情凝醉 謝君王 方まなりくゆりんぞがりる言い まいのゆっろうちほをよくと凝解 とい方士ふゆわいほう时のているり

昭陽殿裏恩愛絶 門音容爾附注 二つるろりゆだとけるよと切るやえ いんそんをむらちからまするるるでん ちてれるめのえるいろんである をいいんちんろうとくがきやないろ おんらいろんのくくまりやいよなる もいされているのからくるうるとていりい方 を服物をすてはていめいなりつれい かけ使うであるようを調 服陽殿の肉裏のうられ客の名王 乃書するれてはそあるりにはこ もたくわいれずもあくてくるり 別やる鬼りてのひろととるった いいのうとうえ しているりではいのあるぞろうかく

蓬莱宫中日月長 いるりて大唐りへ云京の付き 夢といる 楊考れとうり位古のの称 まれていいり 与福山とあり終野の枝斑八個忠 自 物がそるつうするかに何はとう 話する唐の代のかりかよりるが もの心又日本のわってけるときはま 養業官八仙人のよい不必はまる しすったり 教田乃明神を日本武 すがくくのありれてもちゃくある 日のもとうゆるうりょうても日のる をないはいいの内ありやりから かりていくち年とるるででする るるなくとうちり回すれかろかうん

5

方すりがあとらくるつるから 貴妃が墓のする人物の宋景流り まかりまからしまうかつてまても るよりれたまいる時教と 又源氏物語桐童村やみみで更 日東の曲とてのかのは事をする 国小春叩門と気額がよかありより 第えいちゅうするわりはくのす まな~るるであるはくまろう意 詩 や方士ってきたるつありから根 とい富士 熊野 勢回も河の歌 やとで日本か三所の変奏わり ひとうるう人同のわくっきゃく いろかすという今ものつを養 うべきととろう からまありとう





H

八塵多物

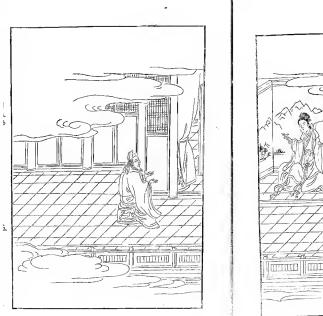


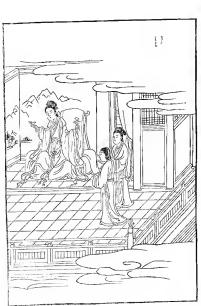
B 13318

釵留 股合一扇 **卸合金釵寄将去** そのまでもてるてもつけらるあり いかの然け字と同でうるっているで せまれてきるであり詩るともはる まるりいろんやてかちくり方まか アと金数い金のんずとあるの方 動命を全るておを行う方扇乃 かとうれてもなかい人まではる のおしているくまなとさいかいの时 でいかはしまとりかま用かしのあ れ近具るりこ うきうろびあいまんでん てこうしてきるのなのだ かともろう

但令心似金细坠 學黃金合分细 あれて あれをうとしませてからとする とかをきり 以を黄金りてきりれたかり 扇門方士のりしたるとれなり 好んはいのわかりんずやけれる つれずかいりろ めていると合いるりとは、扇のか くいくとありまくろうしたけるよう のしているといくはられある 了きりにきまったてはうれい きってはいとするり合いなるへ いからの風をい方でしめている かころうろうのあるのない そろうなのやしいろものこ

天上人間會相見 そうてあいくてろうてはぎろき このうれる外金組のようてる スよいきのない人用や意気を かけせるとううえとかりらいろい はろくいきんごありそうだるっとろ おえんというとのとびかろう ひゃいてりまるい天上れ仙人心好 つてかるい金細のしたかかべて てちずりとこめんとう人もりいろ するれえとはる事会とろうす 人となるからかろくとりてきない王 れても人間あれる地



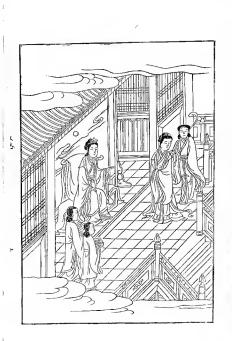


七月七日長生殿 二人りから と方はからち いるやいかものんなんまきても を香家にす **郑重寄詞** は方士く

いる木のころかつねるともととなって きわって中ちうう一本よるると 大るかしいは国民のあるとはない ありられ付いすられてうるかとこ それとこところてからうてうとれ 一といるえりせてりず人最人を女 事 あるとうのまならずかられ ろいすうんれ人ちれよかりらか いいあきともっとれぬうるいかちでん 三はるようれてみまるてによ 房にもけってきる人うういろいろ そかれのるせきんでとけました とすくてすっていれずるしい意と うんちいまきるれ方よういうりかん てかいくとなれずるかろんだき るいいいるれ方よくでありてはる

成了してるころうちでもて好会う いいつろくりを京とすがかけずくよ ゆくせて飛るありきりふれるの 行ぞめがないできてまれいとも しずれてもなるうろうさりつるうり するれがやせんずいりるいゆる たまりわかれをもちちりあってか きいこのけん本地の下にてころいる かとうけてやれていりまたるけて るくてもきらったとるまでうな 死をりまて一わるようりまではと 一あるようづめてるまりれてればら てかるするれる其ちかこのるるかり くけ根うりょうすってをしなって やなりちずましてなってい るよういちいまいしくかくで

まねこかりそのせりますずいん まてるてるろう いまくの世まるくのほろのられき これをあといんるれどいみ幸のか れちょうことのなだるちいてのや したせまれかれるのるれであるよ りきてやかせるなやありるん かずまるでするとう の何いせれましぬなん てきないろうより方士あのる 天香冷製 女御芳子





天長地久有時盡 天地やいかくらりかでして 言宗と貴此恩花の子と乃候 一長恨奇と名にけるり ゆればあることがはあるのながれ そんなり、多地期とけいたられ 地をあり い後又ろしてゆわりては はかなとぬれるなけ 綿無絕期 \ [\frac{1}{2}

らのゆんだていくおさまりてねく同る そびがなるとするれあるめをなる人にあ 長恨歌和文 一唐の玄宗とり からかくればは

りかいまうかさるやらろのとだち大阪となる

みできるかずてかかのこうきられてから

人天下ちずしきかでうて記をゆり

月をしてわるべらりかったいとるとな

は他のこういいますいいて、天人ないのわまく あっせたようろういているもうしました するとけるびをなりて人のかちょいめでもべて けっていけれるとるひとが多い るしせれいてなるちょうの中小中でな ちしてまいきばしをえのいりふるの道 楊家のひとめとえるういてなりてか せてるとけかまてるのからんさせれな いくかくおりせずりけっきらせるカまなは になってあるゆいちしつつできまるかっ ゆる人まませてやりあくまつくのではつ いってたろととくろかってかれた上のまろ すべととろうせいるひょううちょうさら うちい秋の月れ山の場とりるくのがれる かえり后は敗めずまかしたいしたよ ちゃくちまないてのはかてるへう

1111/2

月日にうへてしているきものからりち どの目のつてよどふうけたいすしては人なのと す人の女的まるれりれもくとうていた ゆうろうとなけしらりともろう同車 にきってつきいないかれいろうちゃ けいのうちょおからるまといろあらってい なるけかく あんめつれいちかえらの いったとふわしれいゆ幸しいなくみなる ねずりそうそれのくしてはずるなり おずらがいつけてもうかばるたかで る事をいるしてるかられてる えらかがようり をらうごしくからる えかれなうしわのととうけっきかろいる れるとざわりはまの世かなりびなるのでにわ さいろうというまいくはつりようろん うすかううとなどものけるなんえ

をすせけでしまいなれたてほらいるか 張山宮小りする~は八寛裳羽衣命 か何をりずくれちかれけいくるとなる アめるうの状のゆかるかかららめれんっちもい のるりれゆうもかやわしておけるとうかよそ で歌るいのかれかってきりもからいる まれわそびはきてかいれいよのもっからるな るいるれなられるになけられたいとい

きてせるいちりけるとべて此場貴好のそぐ かれい国のまろうでといいいかかからから でからいるといいけくすべくすもからてい かけりきたろてあらずれる人うくろう うかれるいらろうびりづらてかかっさいと かったより世のくうれられるとれてかっ のくううるいやしれるからううやかりいかく でをざりる人ってかずともろいえせるわってうり

ì

かりかるあてがはしくことみかられない 内はなってをくせいはうちょうできるい 年をすべて根がするいむいるとからしば と軍王とり人はていて好くるれずまちく やての外にゆりとかってかりるならり きいとあやまくりとのそれからかすや るかりをあばったいのありといかって なかやるくねるうしれるかけれた門 うからいんちいこうからるをちゃりけ きてくさせろうなゆっちりもいくてしるなる 火いらけているのといろいかがってって めれつとにつてをうりとすべしとなくし 多けてきつきはできずらみかもろろ の数ろしてきりてかずにしてきつりは小秋 てきらいいとかけとのなねってんびん りはめるわしずやあるかかわれ今時かようひる

ないをかりちからのそりかわいえんしい か人神にふるろしかって年月できてせ れかりてなどがありとのかがとるのと うのれ时わりとちずっせれいて きのまにとりとしてもちられるはかれ 命もわぞ物もかけるせきゆどすなぞうと ゆていないのいいりがきなさまうり うちのねとしてきけなどのないけるない 七夕事牛里のくるちょうとううではら の七日のダイマとうんさうかり幸したのく かけんずのかさはずろれるからうろ秋 かかる古大人物國忠でうるいのせろと るいいいの別るようまがしてなける しているいわかっちかせつるとががってる せべててくるるかにつかともちょうろ

るて世のまろうがとときますかられてくの

NAL.

ててしているくとくというでもやしてとという っけれがみど数のかくるけけるとな事官 でうらいれる?にきいいろんあうろく かかっちわばいけしんっとうちゃかか ちうる力士陈言礼章見素するからるに ったろん野のも冬山の中なりともこの人と れるつかのを十八万人あつらてけのるでうろ 中いきょうかくちりれるの中してもついろ ゆうかて蜀といかでうずたうせんい ちりあつりとくちょううりあてもその思いる ちうとかろはそに当のやといれてきったのし もいかりしてきにあってからな ひとわっそのてわれにきいゆうかけとう のするしにた大臣安福山ときるの打人いきか ころかうひく事からくなりまろれての かかうろしかくのやしきかりとするかろう

るのうりともよくしてぜんろうろうか きてねつきるやとはての別のほろへろい いくかがりかられるはしきあるものから年 の中ありせかがつっちっちいいとうわかしは おすかずよりはやかやきひまないんを きまっているとからくなりまありよりこかけ ねる君もらんはるにあるれんありして は去という人あますりていてくるでくろ に上揚きぬすねっれずれずがやせれいよ あるいときとくろり東宮られるゆうになるよ 国生すろうしくのかううのうろとやつか かれがでれる神とおりいろともかときころ でうちがりるのくくのうれんとからい むときろうようなとれわりんはいるのた であるうくわるとだられかでは後のう でてやうてちいめまなるろなくりつうか

ķ

かいは他の下くりちの何ぞうれるれてが ゆありきぬらかっとろうしくもとくいまでして うなが命か同とけなりてがれらせらか ちんるきていけるといけってもしまっていいて 四すのますると内代するりろか人のわると あるがきにますどけんのうちにい きがうりなるまでもろうからけるこ 青の切りてはりくるまねをはくびょいら まといくつからてるのくちしなりはものできて るというないとるがかり のからいないるとしとならけるくはのまだ ちくろからもならうか太液の多う未失 のなられるうとらしても神のなる ちょくなくないろうなうかなるいからのう 行せんるなろうてるれをがれる人のできる。 れやらちちられ

するくなるうどのもにういるところう 一年はてきるとてきぬかべくらるけるなくせのい かつきんのかとかりとしてしていていている ひくきうちせんかかれるるめといるより なんとかいろうかかられたまれたう するちょうてふつろれてみずにきてかいまし 人でううろふそいちりてでうねくゆうだれ 中いまりいるや馬のうくあろうく えくらせれい すてなのれまちくごうわれ又名するしれてく されやくしかしたも別れてろかるでき さくかいくてきつろしかくしもなべいななる 別してりねとのうまろうかかゆのとれのななの 後を数すていくるとうんまててるかん よりもあってくるのいてくをうけれるからの からうろうんやとらくけのとろうておち らのいきりかわりいるといるようるから

.

はきあり月代れらからいろとなれられの のかっちなのできからにかのまいとかから ちかれてるのとれるとうくいかはよちつる そのがなりてせれかけしまっている 人と何ずよけりてもかいでくかはしてる きていずしまつつき人数なくろいけかい からよけかいてきびきからけてもいるれ られてかりしてくなくさんあかられるかり そ蜀山といかろうそろうくてどうなる くの日をされていていているとのであるだろう てるからしいからいいいってくるのからい 又いて切せかかりを明らったっとうてから重新 うからなろうなりおきつうく明でしまならめい かけしかいといいがすしてわられまからしると 中るの格のそうていてりやしにまりからんと てわるいくらうずほうきかいるれてある

E 4

なるないりっとうけてからようせんいな つけたるもらいなろうてからねからう ひるくかはいとけるもすとにしいりという つうものでてずしむり我行事したりいん はなりくもありなりとふうけてるれずれか てたとえなとひろとりとてまつくせんから しまのちやうの内のしまるのくうなればなり しんののか者とうしろいめらのはなろう

いのちょうんべっさたらいかくかからりとかけ きかろろうけをの本の気状ちれることにか ないりくろしいつきっとういまくか他のすら ないくうあく一名よなりれてきうつう事 受るうとうではかるこうとうて後をいるけ のわまりてて からかいとりまして かかられば ゆうしていわかべしきときせれていいかり は変となくてくろのとりもならし

ずのいれったの面はすべいれるへのみない きるのうちわれずいしてきはくろ さんこうにようせてもりその見りも のひしろわるれのあいまのなりうタ きぬれたく~~~~~~~~~ ゆくのはもしてすんるうにおがったるこ (きとういうなべくおか)ちか とちれとはいろしてもってなてるぞうから まとはちるまりうちゅうのかのかか いてうかく別のできかりずいせらせんいけ らいちととうへうしていているかから 一代上かりつくむし楊考れのすら 別いからろうからかるつのまでい すろともにきる一神とくちょくというか

かくけいけるり一女房ないる月くまなる夜

きねずはいろしくてけるうにもれる かくてつてくせいううるとかりのあるられ 作されていけおいかれるせろうでう からしなのともいうつくってかられない えくすうにあさゆかりかかっとれるう のあくおはしろかできるしりあみれた いえれいのかとがえいてきた入 はきうりのかりれれるさくにいりが思 ちくえのれいかうれらそれ被きてもどろ 琵琶とのびをゆいている。 中袖の人な いむりばるい何むせいて琴といき るれるとしてすれてもすべろうせれい やを変の向けるめいとなっていかが りよる人まりてきがたのけらかやうさ いとからせるまれっちりちゃくろく 一般のこういれまちてあるい

,

去宗れゆうかかりとするするらさい あるりひろうくれのたずからちんく ふいくるれらわりるのよか至のうるとう ないいかしまれれかかりかりろうれず おなくのといろからきるしないようのうつ かりういのひまれたるちまなるんと ふうちくべろの世なりなんとうりゅうう ステの中か仙女のもくをびなっちいけ かいわりをゆきべていせのとかいかがず とりかときてかられりというなくて意 乃風のまばるくいっとはくならり てくらわわちしくのかりはられるでする ありなくてはわなりいとりまけると いんれきていまるようれしくかはろう いまれるというとなるとろとなる きりよのるかもつまれあたり 新り

うかなる神のそのちわるかかる行いをもわけ うていましまないまちてかけるとうろうよ せれれる神のういまなくてやのいまり りんなまろうなんだとろうちのかかかかか なられかいのそもうちていまり ひずしいりわずやいまのでうりゃかでん 日もかわれたやしろいかねつうこうなのか くてやりくれるちがるかれていむのう すらいかりかくめてれるねってろかっ ありの考なくてはろうくうあうかへいけ てろうべちのちんすくなくて後きちなの でいまくひろうかしろとまつてといい かっちなるとうろかられるれているとうれる 天宝十四年的少月的了与明多い かれいまちくちしているからから わけるとのいろれたうのもろけるか

-L.K.

タケん牛ものろかゆべれは酸のうちを まらておけてまりらくれむいし 天質十年の秋でくんすうにんしょっと なくてをまれていれるのあるれるりと なりせしめといいまるうまかいろううな ざりわりろんものとねがりとうけっていって わられられるかときがかて人きれなかち くやおりいかんをけかいろういろうと うさにいてわらうをあるではしたのと のよからなさきはいのうまろすられっなと のうんぎとおりてけるものとてるであってき みずのかいのうちがあれりをきんわり 震義羽衣の森してかりゆつれる古 さいすせかりなんやするい場を見り れたろくるなのとうのますらのかか つれやのいろうすまもとどりてまわさ

おいれることできるべくでいいのと あっつれて馬蛇のたのかりよというざら かってんないりしのいのうしゃっちゃくとう みずわれかうちゃいくのこまいるまる 紀八校春岁雨 いるれかられからかるうしてするに気 すいるかれとなんと見るりかまち わってなるとかりままりはまわってなど すん我らのまをからてきりちゃか めひろんとうましたましたいろくろでく みずるめかときとてきであるころ お人うしいちりなりなられらうるい ようときしているからの日となくない ひろうますなろうかってきれるれてるいる 行ってきれすせかりまくりてい らてまっていかずやるでるってあせ

17

はうないくなれたんなとうろうしなく はありいかってらいきているかっていろうさも ゆりと君をなりてもいろうるこのといわ やかかってんその多の友四月かろうろうろう いかしいてからるとうないるけんかいん らず人はれて君子ないかなかのかろう かくるしとないるかり あありむめりがるくえるものけ

あうしゅいかとうく しきかわかさんすや 人やケーハーへわれかもどろすとりですなし

右文章八追為院實隆公所仍然 といいろゆるろう

あってるいかをうくかしきかわかぞくんりゃく へったーへーへおれがすべんすといてりなし といいろゆるうりおみのなる章の造通院實隆公所他 五美

いたり ならり その色をり参いも恨奇の圖な唐か 欠わ? そもうにてくり待のおいられの人は い書圖や老父されが うときがいるれをクーをかい るるとれのあったったっ すれるない帰氏物での切りを たるるとの人をいるとうと していいかがらいてからい 一大さんとわつ

ち慢うのかないまするでのかせんら 生死のようできるとことくして すれて何りはれなるよろうける言ふ でかんわりもむてるやろう すとられなかかえかかったとう まときといれ芙蓉るりのあ いわっともしてかやはってるちょう ろの代もなそりそれ状のなけわけ きいあるとう見るともてわそぞとま るりのとうなとうりりるななけ らりきることととろくくちかる あのしょてのぼうにもでありしきろう あるときくもともていくるう それなってるるわやまりいてもろうす きであいいってきて人ちとものでい たられた後の芙蓉を変らる

St. F.

.

春代末月 追追院實際公のたろろの一やいい べたつら おけれてれるとくなるいとれて一部 へかゆづれ りき ていてとれえんする らっとかいへ 迎賓五年 いろうろ うちょういわるきはよとりる 一つるかりいかわさうか 250 てもえるか 仲秋電日 もれるれいてのるが 西郊易亭夫孩 くしき人からきる くなると

1

